

報道関係者 各位

2018年2月14日

公開講演会「'70年万博からみんぱくへ」 2018年3月23日（金）開催！国立民族学博物館

国立民族学博物館（大阪府吹田市千里万博公園 10-1）では、公開講演会「'70年万博からみんぱくへ」を2018年3月23日（金）に開催する運びとなりました。

「人類の進歩と調和」をテーマに開催され、今も語り継がれる1970年の大阪万博。そのシンボルである「太陽の塔」の内部に展示する民族資料を、世界各地から収集したのは、日本の若き人類学者たちでした。この「万博資料収集団」によるコレクションは、1974年に創設された国立民族学博物館（みんぱく）へと受け継がれ、今に至ります。

今回は、「'70年万博からみんぱくへ」をテーマに、1970年の日本万国博覧会（大阪万博）からみんぱく開館までの道筋をたどるとともに、みんぱくの、そして日本に住む私たちと世界のかかわりの未来について考えます。



【講演】「太陽の塔」とみんぱく

吉田憲司（国立民族学博物館 館長）

日本が高度経済成長のなかにあった1970年、大阪で日本万国博覧会が開催されました。岡本太郎の指揮のもと、万博のシンボルとなる太陽の塔のなかには、人類の原点を示すというねらいから、世界各地から集められた生活用具や仮面や神像が展示されました。みんぱくは、その万博の跡地に、万博での展示物を収蔵品のひとつの核として、1977年に開館しました。ここでは、現在の文化人類学・民族学とみんぱくが、万博の遺産をどのように継承し、それを今、どのように展開させているのかをお話しします。

【パネルディスカッション】

石毛直道（国立民族学博物館 元館長）×ヤノベケンジ（現代美術家）×吉田憲司（国立民族学博物館 館長）

本ディスカッションでは、ボーイスカウトの一員として万博のイベントに参加した吉田館長と、実際に収集作業に携わったみんぱくの石毛直道元館長、万博の近くで育ち、万博を自身の創作の原点と語る現代美術家のヤノベケンジさんをパネリストとして、「'70年万博を振り返るとともに、みんぱくのなりたちの軌跡と未来について語り合います。

【開催概要】

講演名	国立民族学博物館開館 40 周年記念 公開講演会「70 年万博からみんぱくへ」
日時	2018 年 3 月 23 日(金)18:30～20:30(開場 17:30)
会場	オーバルホール(大阪市北区梅田 3-4-5 毎日新聞社ビル B1)
主催	国立民族学博物館、毎日新聞社
講演	「太陽の塔」とみんぱく 吉田憲司(国立民族学博物館 館長)
パネルディスカッション	石毛直道(国立民族学博物館 元館長・名誉教授) ヤノベケンジ(現代美術家) 吉田憲司(国立民族学博物館 館長)
総合司会	菅瀬晶子(国立民族学博物館 准教授)
申込／参加費	要事前申込(先着順)／無料 ※手話通訳あり

【申込フォームの場合】

国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご記入ください。

<http://www.minpaku.ac.jp/>

申込方法

【往復ハガキの場合】

往信面に次の①～⑥を記載してください。※申込締切日 3 月 15 日(木)

①郵便番号 ②住所 (返信用宛名面にも)③年齢(任意)④電話番号 ⑤参加者氏名・ふりがな(本人を含め 5 名まで)⑥3 月 23 日公開講演会

* 参加申込をいただいた方の個人情報は、本講演会のみで使用いたします。

* 車椅子をご利用される方は、お席をご用意致しますので、お申し込みの際に必ずご記載ください。

宛先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館 研究協力課

TEL 06-6878-8209 FAX 06-6878-8479

メールアドレス koenkai@idc.minpaku.ac.jp

【プログラム】

17:30-18:30	開 場
18:30-18:35	開 会 丸山 雅也(毎日新聞大阪本社 編集局長)
18:35-18:40	挨拶 吉田 憲司
18:40-18:45	趣旨説明 菅瀬 晶子
18:45-19:15	【講演】吉田 憲司「太陽の塔」とみんぱく
19:15-19:30	休 憩
19:30-20:30	【パネルディスカッション】石毛直道×ヤノベケンジ×吉田憲司

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

今年度は、平成 29 年 11 月 17 日(金)に日経ホール(東京)にて「料理と人間—食から成熟社会を問いなおす」を実施しました。

【登壇者紹介】



石毛 直道 (国立民族学博物館 元館長・名誉教授)

1937年千葉県生まれ。京都大学文学部史学科卒業。甲南大学助教授、国立民族学博物館教授、同館館長を経て、同館名誉教授、総合研究大学院大学名誉教授。アフリカ、東アジア、東南アジアなどで食文化の調査・研究に従事。著書に『日本の食文化史—旧石器時代から現代まで』(2015年、岩波書店)、『石毛直道自選著作集』(全12巻)(2011-2013年、ドメス出版)、『文化人類学ことはじめ』(1991年、フォーディアム・コミュニケーション)、『食事の文明論』(1982年、中央公論新社)、『リビア砂漠探検記』(1973年、講談社)など。



ヤノベ ケンジ (現代美術家)

1965年大阪府生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。1990年初頭より「サヴァイヴァル」をテーマに大型機械彫刻を制作。1997年にチェルノブイリを訪問するプロジェクトを行う。2003年国立国際美術館で個展を開催。2011年には震災復興を掲げるモニュメント《サン・チャイルド》を制作、阪急南茨木駅前に設置される。デザイン、舞台、映画等領域横断的な創作活動も続けながら、京都造形芸術大学で教授も務める。



吉田 憲司 (国立民族学博物館 館長)

1955年京都府生まれ。京都大学文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科芸術学専攻博士後期課程修了、学術博士。国立民族学博物館助手、同助教授、同教授、同副館長を経て、2017年4月より第6代国立民族学博物館長。著書に、『宗教の始原を求めて—南部アフリカ聖霊教会の人びと』(2014年、岩波書店)、『文化の「肖像」—ネットワーク型ミュージオロジーの試み』(2013年、岩波書店)、『文化の「発見」—驚異の部屋からヴァーチャル・ミュージアムまで』(1999年、岩波書店)など。

[お問い合わせ] 国立民族学博物館 総務課 広報係
電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@idc.minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press